日程第２．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第２、一般質問を行います。

発言通告者は１３人でありますが、議事の都合により、本日５人、２４日５人、２５日３人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、１人３０分であります。所定の時間内に終わるよう、質問、答弁とも簡潔に要領よく、お願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原　実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。　〔１８番　田原　実君登壇〕

○１８番（田原　実君）

おはようございます。田原　実です。

６月議会一般質問のトップバッターを務めさせていただきます。

まずは、さきの大相撲での大の里関の優勝、誠におめでとうございます。

大の里関の優勝は、市民に大きな感動を、子供たちに希望を与えてくれました。これまで大の里関を育ててくださいました関係者の皆様に、心より感謝を申し上げます。

今日は、大の里関が優勝したときのまわしの色、ブルーのポロシャツを着てまいりました。ますますのご活躍を祈念し、市民の皆様と共に大の里関を応援してまいります。僭越ですが、冒頭、私の思いを述べさせていただきまして、発言通告書に基づき、１回目の質問をいたします。

質問１、基幹病院、医師・看護師確保、救急医療、市内分娩への対応など、地域医療体制確保と市の責任について。

(1) 新潟県の地域医療再編において、上越圏域の基幹病院のダウンサイジングが検討されていますが、糸魚川総合病院ではどのような形にダウンサイジングが進むのか伺います。あわせて、上越エリアでの集約化を進める県の役割と責任について、糸魚川市民の理解をどのように進めますか、米田市長に伺います。

(2) 診療科目が減少してしまうのは、働き方改革や診療報酬改定など、病院の経営の観点からということと、背景となる全国一律の人口減少が糸魚川市では特に著しいためと説明されますが、それだけでは市民が理解できないと思います。ならばどうするという議論、糸魚川市では誰が、どこで、どのように行ったらよいのか、米田市長に伺います。

(3) 市内で働く医師・看護師ほかの医療人材について、詳細を以下伺います。

① これまでも課題であった糸魚川総合病院での看護師不足は、この先、解決に向かうのでしょうか。病院で看護師を確保する、地域で育成することに限界が来ているのではないかと心配します。医師・看護師等、医療人材確保のための就学支援、就労支援の資金の利用

状況や効果を分析して、より利用していただくための検証をされましたか。キャリアの中で糸魚川総合病院を選んでもらうにはどうしたらよいか、またＺ世代といわれる若い方たちへの対応について、行政と医療機関で協議がありましたか。

② 市長の公約の一つに看護学校等の誘致があったかと思います。私も以前に一般質問で伺っていますが、その後どうなりましたか。

③ 看護師不足からの病院の運営がいつかの時点で大きく転換せざるを得ない、糸魚川市の地域医療が大きく変わらざるを得ないなら、その理解を市民に求めていくのは行政の役割です。どう伝えていくのでしょうか。糸魚川市の対応について、米田市長に伺います。

(4) 私が一番に危機感を持っています糸魚川総合病院での救急対応は、この先どの程度できるのでしょうか。旧姫川病院閉院により市内での循環器対応が困難となったとき、糸魚川総合病院に循環器病棟を造り、医師を確保して、カテーテル、ステントなど内科的手術ができるようにと市長からは大変ご尽力いただきましたが、その現状について、また今後の見通しについて詳細を伺います。

(5) 再開した市内分娩対応の現状と課題について伺います。出産対応でのバースプロジェクトへの取組の成果と課題について、関係機関と一緒に振り返り、検証を行いましたか。またそれはどのようなものでしたか、詳細を伺います。また、医療ＤＸ推進の一環として、保健師による出産相談対応にＬＩＮＥアプリを使うことを私から提案し、進めていくと答弁いただいたと思いますが、現状はいかがですか、伺います。

質問２、震度６以上を想定した地震災害対応、上越・糸魚川沖Ｆ４１断層による地震・津波避難と市の責任について。

(1) １月１日の能登半島地震で糸魚川は震度５強でしたが、市内京ケ峰地区の地盤変化と宅地の擁壁崩壊について、震度６以上となった場合の安全性を考えてありますか。今回、擁壁崩壊や道路損傷が大きなところは、宅地造成のときに盛土した場所で、かつ、その下に沢があったとされることから特に心配です。私が提案したようにボーリングでの調査を市が責任を持って行い、安全確認して、擁壁や道路が今以上に損傷しないよう予防に努めてください。市民の生命及び財産を守るのは市の役割・市長の責務ではないですか、米田市長に伺います。

(2) 上越・糸魚川沖Ｆ４１断層による地震・津波は数分で押し寄せ、大きな被害をもたらし、多くの人命が失われることが考えられます。糸魚川市ではどのように想定し、市民に伝え、防災・減災に努めていきますか。また、市の緊急放送や情報通信システムの不備や不通が大きな混乱の原因になりますが、その対応はできていますか、米田市長に伺います。

(3) 沿岸に住む市民は、津波のときは遠くの高台へ自動車で向かうことができない場合は、すぐに近くで垂直避難をせざるを得ない状況です。そのための避難施設と避難路の確認・確保は市の責任で進め、市民の命を守っていただきたい。その認識と対応を米田市長に伺います。

(4) ４月１４日に「地震・津波に備える」と題した能登半島地震講演会が市民会館で開催され、市民約２００名が参加しました。その冒頭の挨拶で米田市長は「住民が避難計画にある「取るべき行動」を理解していなかった」と述べていますが、そうでしょうか、伺います。講演していただいた富山大学の安江准教授から避難について「地域のハザードマップをしっかり見て理解しておくこと。それを見ながら地域を歩いてみるのも重要。最新情報を見て自分の

身の回りの地形について自分で判断できるよう日頃から地域をそのような目で見ていくことも重要。そういう機会をジオパーク協議会と一緒につくるとよいのでは」とアドバイスがありました。また避難生活について「そこに避難した人たちが主体的にやっていくのが避難所。『お客様』で行くのではない」と能動的な姿勢を求めたと新聞記事にありました。それは誰が、どのように、いつまでに進めることですか、米田市長に伺います。

講演会は市民と危機感を共有するために有効なものと評価しますが、講演会に出席していない市民への対応はどうですか。例えば講演会の録画をユーチューブで配信すべきではないでしょうか。さらなる危機感と安心感の共有に向けて、積極的な情報発信を望みます。市の対応について米田市長に伺います。

以上、１回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。

○市長（米田　徹君）

おはようございます。

田原　実議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、少子高齢化による医療需要の変化などから、一定程度の病院機能・規模の適正化は必要と考えますが、当市にとって必要な医療機能を堅持するとともに、適切な時期に説明会を開催するなど、市民の理解が得られるよう努めてまいります。

２点目につきましては、県が中心となって進める上越地域医療構想調整会議において、上越医療圏全体としての持続可能な医療提供体制の確保に努めてまいります。

３点目の１つ目につきましては、市内病院、高校、県などで構成する医療人材確保対策事業企画推進委員会において、事業の検証や改善、病院関係者と共に修学支援制度利用者との面談や学校訪問などに取り組んでおります。

２つ目につきましては、近隣の看護学校等を調査し、検討しておりますが、現状では実現は難しい状況であります。

３つ目につきましては、医療再編はその協議段階から情報発信を行うなど、市民の声をお聴きしながら議論を進めております。

４点目につきましては、現在は手術も行われているとのことでありますが、今後につきましては、医療再編の中で検討されていくものと考えております。

５点目につきましては、先月、糸魚川総合病院と産科関連の取組や計画についての協議を行い、利用促進などについて、意見交換をいたしました。

また、妊娠・出産・子育てに関するオンラインでの相談アプリにつきましては、市民が利用しやすい内容や機能について現在検討いたしております。

２番目の１点目につきましては、京ケ峰地区において、国の現地調査に加え、現在は、地盤の動き等がないか測量調査を実施しており、調査結果が判明次第、地区住民に説明をしてまいります。

２点目につきましては、県が令和元年から４年３月にかけて調査した地震被害想定において公表されており、引き続き、日頃の備えとして周知してまいります。

また、情報伝達につきましては、防災行政無線のほか緊急速報メールなど、多重化に努めてまいります。

３点目につきましては、避難場所の確保や避難路は日頃から確認することが重要であると捉えており、引き続き、地域の意見をお聴きしながら対応してまいります。

４点目につきましては、津波警報の発表により、自発的にいち早く避難行動を取ったことは、市民の危機意識の高さを感じておりますが、津波避難については、周知が不足していた部分があったことから、原則、徒歩で、より高いところへ避難するよう、引き続き周知してまいります。

また、能登半島地震講演会において、安江准教授からご提言いただいた内容につきましては、自助、共助、公助が連携する中で進めてまいります。

なお、講演会のユーチューブの配信につきましては、著作権や肖像権の承諾を得ることができれば、配信したいと考えております。

以上ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

では、再質問いたします。

地域医療体制確保と市の責任について、２回目の質問です。

市長答弁が不足と思うところを再質問し、担当課より詳細をお答えいただきます。よろしくお願いします。

上越圏域の病院再編において、県立病院の経営は厳しい、厚生連の経営も厳しいと聞いています。なので、どちらかが生き残るのではなく、何とか共存してやっていく方法を考えなければいけない。となれば、どのような形となるのか。県立か厚生連かでなく、第三の運営の形を模索するのか。これは県も考えているはずですが、どうなりますか。最新の情報を担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

おはようございます。

ただいまの状況ですけれども、県のほうで考えているのは、今現在、県立を残すのか、厚生連を残すか、または新たな形態をつくって一体として運営をしていくかという、そこをいろいろ模索している状況でございまして、地域医療構想調整会議の中で議論が進んでいくものと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

病院再編の協議は、今の状態を一歩進めて、上越市、妙高市のエリアでは、基幹病院が１つあって、その周りは地域包括ケアを支える病院ということになりそうだと聞きますが、糸魚川総合病院には、ケア病院だけでなく救急対応を担ってもらわないと、市民は困ります。市民も困るし、上越側でも、仮に糸魚川の人がどっと来られても、受入れは無理だと思います。まず、この点、市長の認識を伺います。

また、上越に新しい中核病院を造る話、中央病院、上越総合病院のいずれかは、救急をやる病院として残るという話などあるようですが、まだその結論に達していないとすれば、いつ、その全貌が分かりますか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今、県がリーダーシップを取っております地域医療構想につきましては、人口減少が県内において発生いたしておるわけでございますので、それと現在の医療構想の中で、医療人材の確保をどうしていくかという中で生まれたものであります。そういう中で、今ブロックごとに分かれていくことの中で、上越圏域という形の中で今、取組をさせていただいとるわけであります。ですから、新たにどういう方向でいこうとか、どういう構想でいこうとかということではなくて、今、議員ご指摘のような県立病院、また厚生連病院もそういった課題を抱えている中、それと、そのほかにもまだ医療施設があるわけでございますので、そういったものを全て含めた中で、上越圏域はどうあるべきかという形で、大前提の中で入っております。でありますから、県立病院を残そうとか厚生連病院を残そうとかという、想定したものではございません。

そう言いながらも、しかし、もう非常に厳しい経営状況の中において、また、医師不足、看護師不足も顕著に表れてるわけでございますので、それを今どのように進めていくのかということで捉えてるわけであります。でありますから、そういう中において、当糸魚川市の課題についても、やはりどういう環境の中にいるのかという中においては、必要な診療科目は残さなくてはいけないと思っていますし、特に上越から離れてるわけでございますので、救急的なその対応については、私は残すべきと捉えておるわけでありますし、その構想の中においても、そういう意見もあることは確かでございますが、まだそういったものは具体的に何も出てきておりませんので、これからの中で、我々は糸魚川の診療科目や、そういった必要なものについてはしっかり位置付けていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

時期についてのご質問だったと思いますが、今年度中、しかも年内ぐらいには、ある程度、地域医療構想調整会議の中で議論が進んで、示されるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

市民の声を紹介します。

医療フォーラムに参加して話を聞けば、現状と対応は、確かにそのとおりと思う。しかし、今のままでは、市民の不満や不安が増して、みんな糸魚川から出ていってしまう。あるいは今、都会にいるが、糸魚川には住みづらいので帰らない。糸魚川に住む意味がないと考える若者が増えるのではないか。ならばどうするという議論は、誰が、どこで、どのように行っていくのですか。市長は、糸魚川総合病院に産婦人科や必要な診療科目は残すと言われましたが、万が一のときの救急対応が心配ですというもの。

議論を進めて、糸魚川総合病院は救急もやる病院になるという結論に持っていっていただかないと市民が困ります。それは、いつまでに明らかになるんでしょうか。市長、もう一度お答えいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

先ほども言いましたように、糸魚川で必要な診療科目というのは、やはり救急医療だと思っております。それはやはりどうしても残さなくてはいけない。そしてまた、上越の中心地から離れてるわけでございますので、やはり糸魚川で完結する、この診療科目の必要なものはしっかりと残さなくてはいけないと思っておりますし、これは、やはりどこの方々も同じ考え方だと思っております。そういうものをしっかりと残さなくちゃいけないもの、そして、今言ったように核となって、そこで進めていけるものについてはそういう形で進めていくかもしれませんが、その各市で残さなくちゃいけないものについてはしっかり残していただくようにしなくちゃいけないし、最悪の状態になっても、我々は、糸魚川にとって必要なものは糸魚川に設置していかなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

ですから、その必要なものって一体何なんだということですよね。残したいといっても残せるかってことですよ。それが明らかになるのはいつなんだと。それを協議するのは、どのような形で協議され、市民に明らかにされていくのか。県ですか、市ですか、医療機関ですか、あるいは何らかの協議体ですか、いま一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

それを今進めているのは、医療構想会議の中である程度まとめていく中で、我々はそれを受けながら、それに対して検討しながら、そして、それをある程度具体的に市民にお示しするときが来たらお示しをしながら、どのように進めていくか、自分たちの糸魚川市としては、上越の医療構想で進めていけるのだろうか。いけないのだとしたら、さっき言いましたように、自前でこの糸魚川市だけで単独でも考えていかなくてはいけないことを進めていかなくてはいけないと思っております。

やはり、しかしながらこれに大きく今前提に入ってるのは、医師不足、看護師不足、人口減少という現象の中で起きてることでございますので、我々といたしましては、その辺をしっかり見定めながら、市として判断するべきときは判断しなくちゃいけない。そして、市民にお知らせするときには、きちんとお知らせしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

ダウンサイジングにしても、糸魚川総合病院は救急もやる病院に間違いなくなるという結論に至るには、医師の働き方改革を論じなければなりません。以前より、看護師の夜勤が問題になっていましたが、働き方改革がクローズアップされたのは、救急をやる基幹病院に医師を集めなくてはいけない、そういった状況を世の中にもっと知ってほしいということで強調されたのではないか。

楽観視はできないが、人材をどう確保していくか議論していく時間は、まだあるという見解を聞いたことがあります。

しかしながら、市内分娩が困難になったことを最近経験した私たちにすれば、そう言ってもいられないのではないかと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

私いつもお答えしてるように、今、糸魚川の地域医療にとっては余裕なんかないです。医師不足、看護師不足というのは最前線にありますし、そして、なおかつ人口減少という中で、この病院が経営が大変な状況になっていることも現状であります。それをダウンサイジングというような言い方されるわけじゃなくて、必要なものについて、そして今、この医療現状の中において、いろんなことが今起きてるわけでございます。先進的な取組等も行われている中でそういうふうに展開できないかという、展開できるものについては、そういう展開をしていけばいいし、残さなくちゃいけないものについては、やはり何があるかというのは、我々の市民生活の中で絞り込んでいかなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

フォーラムで聞いた話とちょっとずれてきましたね。医師不足や病院経営については、これからもずっと課題となっていきますが、これまでとは違った糸魚川の医療体制というものを、市長は、自らお考えになっていますか。ダウンサイジングの中、医療ＤＸ推進が課題解決につながるとお考えですか、別の考えですか。５年後の糸魚川総合病院はどうなっていますか。これこそが、本日の質問の主題です。米田市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今、糸魚川の医療をどうするかという前に、もっと大きな課題が、今先ほどから言ってるように起きてるわけであります。医師不足、看護師不足の中で、そして人口減少というそういった状況の中で地域医療をどう進めていくかというところが、非常に１市ではなかなか捉えられないものでありますから、今、県が、地域医療構想という中でそれを進めて、１つのエリアの中で対応できないか、医療資源が今ある中で、現在の医療資源を生かしながらできないかというところで、今議論をしていただいてるわけでありまして、我々はその中に加わらせていただいて、進めていく上越圏域、そして糸魚川市という中で進めていきたいということで、進めておるわけであります。そういう中で、今ある現状の中で最悪の状態になったらどうするべきかというところも、やはり我々は根底に持ってますが、まだ具体的に出てきてない中で、我々はそれに対して対応というのは、実際、具体的には、まだ進めてはおりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

まさにそのことを聞きたかったんです。

それで、広域の医療連携について伺いたいんですけども、上越市、富山県圏域の病院との広域救急連携の必要性をどう捉えているか。その際の糸魚川市に求められる対応、特に救急搬送について課題を出し、分析しているか。何よりもこういった課題を市民に示し、解決に向かうように、市民と一緒に考え、行動しているのか、市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

救急医療に関しては、私は、今、糸魚川市の現状は、富山県境、長野県境に接しておるわけでご

ざいまして、そして、通常であれば上越中央病院、上越総合病院というところになるわけでありますが、しかし、さらにそういった連携が、緊急時のときには取れないということになってくれば、富山県であったり長野県のほうに連携させていただいておるのが実情であります。

また、ドクターヘリにおきましても、そのような状況の中においては、長野県、また富山県へ連携して対応できるような体制にはなっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

市民と共に、解決に向かうような話合いというようなことも私、伺ったんですが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

市民との情報共有というのは、やはり医療フォーラム等でしていかなくちゃいけないと思っております。なかなか市民の皆様方にそういった情報を出すという機会というのは少ない部分があるなと思っておりますが、医療フォーラムという中で対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

本日の質問の主題は、糸魚川の持続する医療体制です。そのために人材確保をどうするかということで続けて伺いますけれども、糸魚川総合病院の看護師不足がどのくらいのものか、数値的に分析していますか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

糸魚川総合病院の看護師の数は、およそ２３０名ほどです。それで、この春、病床が２６１床から１９９床に減らされて、１病棟減となっています。この主な原因ですが、経営上の問題もあるんですけども、看護師が不足して、退職等で不足して確保できない見込みであるというような要素も含めての減ということでございますので、今は何とか、この４病棟の中では何とか確保できているというふうに伺っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

要するにダウンサイジングは、もうせざるを得ない状況になってるわけですし、現場はそれ進んでるわけですよ。これを補うものとしてはＤＸの推進ということもあろうかと思いますけれども、その点、糸魚川市は、どのような支援みたいなものをされているのか、あればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

当市としましては、ＤＸの推進に関連しまして、オンライン診療という部分で、今、糸魚川総合病院といろいろ意見を交換させていただいております。今後、在宅の方に訪問診療とかを行うときに、医師が病院にいながら看護師が訪問をして診療を行うというような形、これは国保診療所でも既に行っておりますが、そういったことを進める上で、ＤＸの推進が必要なのではないかということを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

それを進める上でも、やっぱり看護師というのは絶対必要なんですよ。医療関係者からは、他市に比べて手厚いと評価を受けている糸魚川市の医師、看護師と人材確保のための支援体制ですが、それで看護師確保はできたのかと。資金の利用状況や効果を分析し、より利用いただくための検証をしましたか、担当課に改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

検証ですが、担当課として毎年行っております。それで、制度も随時見直しをして、新たな制度をつくったり、実際に看護学校に通われている看護学生、または看護学校のスタッフの方からお話を聞く中で、有効な制度づくり、支援制度づくりを検討しておりまして、今年度につきましても新たに潜在看護師が非常に多いという中で、そういった方から、ぜひ現場に復帰いただくための再就職支援なども創設したところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

引き続き頑張っていただきたいと思います。

看護師確保策について、糸魚川総合病院を職場として選んでもらうにはどうしたらいいか。今、キャリアの話も出ましたですけど、特にＺ世代と言われる若い方たち、医療従事者確保への対応に

ついて医療機関と協議があったかということで伺いたいと思います。であれば、どのような話合いがあって、どんな結論となったのか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

Ｚ世代を含めた今の若い方たちに糸魚川総合病院を選んでいただくためにということですが、基本的に看護師というのは、不規則な勤務形態ということで地元志向がすごく強いというふうに言われています。ですので、なかなか厚生連の糸魚川総合病院においても、遠方から糸魚川総合病院にお勤めいただいてる、配属されている看護師の方もいらっしゃるんですね。そういった方々については、ある程度、一定年数、二、三年という年月がたつと、退職または転勤の希望を出されるということで、また病院からいなくなってしまいます。ですので、やはり地元の方から、糸魚川総合病院にお勤めいただいて、看護師として活躍いただく。そういった形が望ましいと考えておりますので、そこへの支援ということにこだわって、努めていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

人材確保のために、病院の魅力発信をということですよね。それで、糸魚川総合病院では、現状と課題をＳＮＳ等で情報発信し、市民理解や医療人材確保に努めていますが、米田市長は、病院のホームページやＳＮＳ等をご覧になっていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

残念ながら、ＳＮＳは見てございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

課長はご覧になってますね。最近のトピックは何でしたか。健康増進課職員、保健師、庁内でそれを共有できていますか。そこに市がサポートしていることは何だということを、この機会に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

私のほうは、度々ホームページのほうを拝見させていただいております。それで、田原議員がおっしゃるトピックという部分が私の感じているところと合致するかとちょっと分かりませんけども、昨年度だったと思いますが、から、新たな産婦人科の形、バースプラスというものを特集的にホームページのトップのいい場所に配置されておりますし、あと、項目的に総合診療医の募集であったり、あと糸魚川総合病院が力を入れています膵臓・胆道センターのことであったり、そういったものがトップページに配置されているというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

病院のホームページやＳＮＳでは、看護師のオンラインを活用した会議など、日々の看護の仕事ぶりや優しい看護師を基本とする人材育成をしていることが見てとれます。看護師の定着に向けて、仕事も遊びも充実、暮らすにはちょうどいい糸魚川ということをアピールするパンフレットも掲載されています。

糸魚川市では、こういう情報を出していますか。看護師確保への病院の努力を市民や市外の皆さんに知ってもらおうとは考えませんか。医療情報をきめ細やかに出していくなど、マネジメントに市も主体的に取り組むべきではないかというのが、私の考えですが、いかがですか。担当課と、それから情報発信ということでは総務課にも伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

残念ながら、私どもの健康増進課が担当させていただいている部分では、情報発信が不足しているかなというふうに思います。今、議員からのご提言をいただきましたので、それを参考にさせていただいて、今後、情報発信に努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田総務課長。　〔総務課長　嶋田　猛君登壇〕

○総務課長（嶋田　猛君）

おはようございます。

市からの情報発信ということで担当してます総務課のほうからお答えさせていただきます。

市からの情報発信につきましては、紙の広報誌であるとかホームページ、公式ＬＩＮＥなどがありまして、市から伝えるべき情報、また、市民、市外の方が欲しい情報を分かりやすく、さらには伝えるを進めまして、相手に伝わるといったことを留意しながら情報発信に努めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

看護師は、やりがいのある仕事、そして働きやすい環境、生活するには糸魚川ということで定着していただくことを期待しております。

私が、ある看護師さんから伺った話では、糸魚川はマクドナルドはないんですよねと言われる。ただ、若い看護師さんにすれば、生活の一部が欠けていると感じることなのかもしれないということです。

そこで、週に一度でもよいので、病院の前までマクドナルドのキッチンカーに来てもらえないものかという提案をいただいております。看護師さんたちが喜んでくれるなら、市がサポートしてもいいんじゃないでしょうかと、私は思います。一度お試ししてはいかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

今ご提案のありましたマクドナルドのキッチンカー、週に一度でもということですが、実際にそれが実現可能なのかというところを確認させていただきまして、また対応を考えさせていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

ぜひお願いします。

次に、市長の公約、看護学校等の誘致は困難であると。

そもそも市長が公約に掲げた理由は何だったか、目的は何だったか、施設建設工事が目的ではないと思いますけれども、学校誘致から地元病院での看護師確保までのストーリーを、いま一度、市長からお話ししていただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

私が、看護師養成学校、そういった施設を誘致したいという気持ちの根底は、やはり市内に住んでおられる、そしてまた、市内を卒業される方々の中で、看護師を目指す方が結構おられたという受け止め方の中で、だとしたら糸魚川で看護師になっていただきたい。そういう気持ちで看護師養成所、学校を誘致したい、また設置したいという気持ちで掲げたものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

高校生で医療看護を職業とすると決心して、仮に糸魚川を離れても、糸魚川とはつながっていてくださいという教育をしっかり施す仕掛けをつくっていくことは、意味あることだし、効果も期待できると私は思います。私はそう信じます。

ならば、その目的に向けて進んでいく方法、作戦を考えるべきですが、それが米田市長にはありますか、ぜひ伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今、看護師不足という一つの大きな課題の中では、それをやはり我々は考えた中で対応いたしております。それも、今言われるような目的をその中に含めてやっておる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

糸魚川という場所だけで看護師を育てていく。また、糸魚川に看護師をずっと確保することが難しくなってきた。ならどうするというところからのお話なんですけども、私、今回の質問を行うに際し、新潟県上越保健所長の山﨑医監にお願いして、お話を伺いました。それを参考に、医療は素人の私ですが、自分で考え、質問をさせていただいております。

それで、県の医療構想で上越圏域での病院のシェアが進むならば、看護師のシェアはできないのか。あるいは、看護教育の場のシェアというものはできないのか。今ある病院施設を生かす形で医療資源を確保して、持続していくようなことを考えていけないか。また、この先、そうならざるを得ないのではないかと思います。担当課の意見を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

医師だけで医療ができるわけでございません。ですから、やはり医療構想の中においては、やはり全てのスタッフもその中に含めて検討に入っているわけでございますし、当然、看護師もその中に位置づけておるものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

医療構想の協議の中でそんな話が出ていれば、担当課、少しお話ししていただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

今のところ、まだ医師の数だとか看護師の数というような議論には至っておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

時間の都合で話が少々飛躍しますが、県が進める医療構想です。糸魚川には県立の高校が３つございます。その中で医療・看護の道を進みたいという子供がいたとすれば、この糸魚川の中に何か学びの場をつくってあげたいなと。そこから、どんどんと成長していっていただくということを私考えたいんですけれども、糸魚川総合病院の中に県立看護学校のサテライト的なものをつくって、体験学習を行う。当然、関係機関に聞いて、調整ということになりますけれども、糸魚川総合病院の「なでしこ」のスペースに、看護学校とまではいかなくても医療を学ぶスペースをつくって、高校の生徒で医療を志す方はしょっちゅうそこに来て、リモートで履修したり、たまに看護専門学校の先生に来ていただいて学べるという、そういう場をつくってはどうか。思いつきですが、可能性はあると思うんですね、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

その養成所、そして学校誘致だけではなくて、我々といたしましては、サテライトスクールであったり、また分校、そしてまた、研修コースの学べるところでも何でも、要するに学べる場をつくっていきたい。そして、そこで糸魚川の子供たち、さらに拡大して、県内の、やはり糸魚川だけでは少し人数が少ない部分もあるので、その足りない部分は、やはり県外からでもお越しいただけるんではないか。魅力あるものをつくって、そういうものはできないだろうかということで検討をさせていただいている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

ある場所を使おうということで、ご提案をさせていただいてるわけですし、糸魚川総合病院こそ、その場としては一番ふさわしいだろうというふうに考えてのことなんです。それで、上越エリアの中でどうやって看護師を育てていくかということは、これから進めなければいけない。その中に糸魚川が加わっていくためには、そういった取組が必要だろうと考えての提言なんですけども。市長一度、山﨑医監に糸魚川においでいただいて、糸魚川総合病院の病院長先生と市長と３人でお話し

されたらいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

最近は、山﨑医監とはなかなかお会いする機会はございませんが、山﨑氏におかれましては、糸魚川の地域医療を十分知っておられるわけでございますし、糸魚川の本当に危機、施設が危機に陥ったときに相談に乗っていただいた方でございますので、相談に行くことはやぶさかではございませんし、時間があったらお伺いしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

ありがとうございます。よろしくお願いします。

いずれにしても、県がこの医療再編を進めるんだということであれば、県からは糸魚川の圏域に、糸魚川総合病院と言いましょう、看護師は必ず確保するというお約束をいただかないと、この医療再編は進めるわけにはいかないんですね。そこはやっぱり米田市長のお役割、責任じゃないかと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

医療構想については、県がリーダーシップを取っていただいておるんですが、しかしこれは、各上越圏域３市のやはり課題でもあるわけでございますので、それはやはり我々はしっかりとその中で糸魚川の考え方や、また３市の対応、そういうものはしっかりと入れていかなくちゃいけないと思っているわけでありますので、今、関係者で論議いただいている部分についても、我々３首長も、またそういう中で自分たちはどう考えていくべきかというのも捉えてるわけでありますので、その中でしっかりと考えを出していきたいと思いますし、そのやはり上越３市とまた違った方向に行くことはないと思っていますし、我々としては、それをしっかりと連携していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

では、（４）の糸魚川総合病院での救急対応なんですけども、カテーテルやステントなど、内科的手術ができるのかということを具体例として出しました。もう少し詳細に、担当課からご説明い

ただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

糸魚川総合病院では、循環器病棟の整備を行ってからずっと、今、議員ご指摘のカテーテル、ステントなどの内科医的手術というものを実施してきております。これは現在も続いております、はい。

ただ、今後、先ほどからのお話の地域医療構想の再編の中で、その機能がどうなっていくのかというところは、まだ不明なところでございまして、その辺は、また今後の議論の中でしっかりと検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

それができなくなったといったときの市民の反応といいますかね、市民がどういうふうにお考えなのかというのは想像されてますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

診療科目が増えることに対しては、反対されることはないだろうと思っておるんですが、我々、今ある診療科目が減ることによって、市民に及ぼす影響というものは非常にやはり大きく捉えていかなくちゃいけないかなというのもあるわけであります。その診療科目によっては、やはり市民の皆様方にご報告しながら判断をしなくちゃいけないところもあるんではないかなと思っております。今、１つ例に挙げていただいとるわけでございますが、私は全ての診療科の今行っている診療科目というのは、やっぱり地域に根づいた診療科目であるわけでございますので、やはりそれは、糸魚川市にとって、市民にとって本当に大きな事柄になろうかと思っております。

しかし、このまま進めて、全て一気になくなるというような状況が起きてはならないわけでございますので、地域医療構想の中でどのように糸魚川総合病院が核として、地域の糸魚川の診療の核として、やはり残りながら、この地域医療、糸魚川の地域医療を守っていかなくちゃいけないと思っておるわけでありますので、この糸魚川の病院、糸魚川総合病院というのをどのように位置づけしていくかというのは非常に今、構想の中でも我々は、非常に関心が高いところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

姫川病院のときの状況は、市長もよくお分かり。寝耳に水、そういったことで医療の崩壊の始まりじゃないかということになった。そういうことはないというふうに言われるでしょうけども、ただ、ゆっくり分かるのか、急に分かるのかの違いで、いずれにしても糸魚川市民が非常に困ってしまう状況に追いやられるということだけは、これは避けていただきたいわけですから、やはり今から、県が進める、あるいは病院の都合があるというものであったとせよ、糸魚川市民のためにこの救急医療は守るんだと。必ず病院の中に残すんだということをはっきりとさせていただきたいですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

何度もお答えいたしているように、私は、糸魚川総合病院の一番大事なところは、やはり救急医療であると思っております。でありますから、これは残していかなくてはいけないということで主張していきたいと思っていますし、主張しております。

しかしながら、まだ、その構想の中で、あれは駄目、これは駄目という中で、当初からやってたら何も前へ進まないわけでございますので、そういった地域、３市の意向を踏まえながら、医療構想はまとめていくんだろうと思っております。そういったときに我々といたしましても、もしそういった意に沿わなくなったときのところも、やはりいつのときかしっかりと考えながら、どう対応すればいいかというところも、我々は考えていかなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

また、この話は伺います。

それで、バースプロジェクトの話ですけども、これを関係機関と一緒に振り返り、検証を行いましたかというところ、担当課に伺いたいと思います。

これ、どこが担当課になるのかということですけども、バースプロジェクトについては、こども課になるんですかね。それから、救急搬送ということになると消防になるんでしょうかね。こども課ですか、健康増進課ですか、縦割りになってて分かりませんけれども、お答えいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

おはようございます。

お答えいたします。

バースプロジェクトの取組につきましては、糸魚川総合病院と、こども課、健康増進課同席の上で、一緒に協議をさせていただいております。こども課のほうで実施する事業もございますし、健康増進課のほうで実施する事業もございます。そういったところを糸魚川総合病院のほうにもご説

明しながら、ご理解をいただき、ご協力をいただいているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

市民の方で、分娩をされる方や、あるいはそのご家族の方が、ここに一番興味を持たれると思う。興味を持たれる、それで、糸魚川市の取組はこうですよということを理解するのが、まず第一なんですけども、他市で取組が非常にいいんだというような声を私、聞くんです。皆さんのほうには入善町の資料をお渡ししてご覧いただいておりますけども、この入善町の取組ね、これと糸魚川の今の取組を比較してみましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

入善町の取組については、私どものほうでも拝見をさせていただきました。市内で、当市のほうで取り組んでいないような事業もやられているということで、例えば子宝支援金とか結婚祝い金等も含めた、そういった給付金みたいな事業もかなり充実しているなというところでは理解をしているところでございます。

また、こういった事業を参考に、当市のほうでも検討はさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

要するに情報というものは、見る人にとって見やすい、分かりやすいですよね、それが大事だと思うんです。糸魚川も資料を作ってはあるんですけども、例えば結婚してから出産して、それから、これは小学校入学ですかね、そういった一連のライフステージに対する支援がこうなりますよという一覧のものが、糸魚川市にもあります。入善は、この子育てナビというこれ１枚なんですけど、比べてみると、もう見やすさが違うんですよ。必要なら見るでしょということかもしれないけど、こういったデザインとかセンス、そういったものが非常に大事だと思うんですよね。なので、糸魚川市にも保健師さんおられるわけですから、皆さんで、もう一度見やすい情報づくりというのはどうしたらいいかというような、そういったことを考えていただきたい。入善のものも参考にしていただきたいと思うんですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

田原議員おっしゃるとおり、私もこちらの資料を拝見しまして、非常に見やすいなというふうに感じました。また、この資料だけでなくて、入善町のホームページのほうも非常に調べたい情報にたどり着きやすいなというところでは認識させていただきましたので、また、こういったことを参考にさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

ありがとうございます。

では、質問の２、地震津波避難と市の責任について、再質問をしてまいります。

先ほどフォーラムでの市長の発言ですとか内容については、一応ご答弁いただきました。この後、また避難訓練等もあるわけですけれども、要は、自力で行ける近くの垂直避難ビルというか、その施設が確保されているのか。また、避難経路というものがちゃんとできているのかという確認は、できてるんですか。その上での訓練をやられるんですか、確認をさせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、避難経路、自分の避難場所、いわゆる安全な場所、これはご自身でご確認いただきたいということはお話しさせていただいておりますが、ただ、当然ご相談には乗らせていただくといったようなところで、今展開しております出前講座等でもお知らせをしているところです。

そんな中で、津波、日本海側の津波につきましては時間がないといったようなところで、田原実議員おっしゃるとおり、垂直避難が非常に有効だといったところで、津波避難ビル、あるいは自宅の２階、そういったところで自分が安全な場所はどこなのかといったところを、あさっての２３日、防災訓練で実際に時間がかかってもいいんで実施していただきたいというのでお願いしているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

やってみてですね。

それと、今度は京ケ峰のほうですけども、地震被害と行政対応なんですが、国土交通省における京ケ峰地区の地盤調査結果報告会でいろんな説明がございました。

しかしながら、測量によっての変化は認められなかったということだけであって、一番危ないその地盤になっているんじゃないかといったところ、これはボーリングもやっていなければ、この先、大丈夫だというような話も聞いておりませんが、大丈夫ですかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

おはようございます。

お答えいたします。

国土交通省のほうで、３月に地盤災害調査ということで実施させていただきまして、先ほど市長答弁にもありましたとおり、現在、現場の移動状況は定量的に把握するためにということで、地盤の動きがないかということで今測量のほうの調査を行っているところでございます。そちらの調査結果に基づきまして、今後、その調査結果を有識者等と相談しながら、今後、必要な調査等あれば進めていくんですけども、今流れといいますか調整としては、そのような形で進めていく予定でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

私は、現場を見て、一番擁壁の損傷の激しかったところは、その下に原因があるんじゃないかと、それちゃんと調べるのが市の責任じゃないかということを申し上げてるんですけど、それを何もやろうとしてませんよね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

やはり調査はいろいろあろうかと思っております。ですから、最初からボーリングということに私はならないと思っております。いろいろ調査する中において、最終的には今、判断する中でボーリング調査をするときもあるでしょう、あるかもしれません。やはり必要になったら、必要なものは必要のある、やはり調査の段階で行っていきたいと思っとるわけでありますので、今の段階では、課長が答弁したとおり、この測量調査の中で、過去からの変動があったかどうかという調査を、まず最初にやらせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

もっと危機感を持って、取り組んでください。市民の命を守ってください。

○議長（松尾徹郎君）

時間が参りました。

○１８番（田原　実君）

終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原　実議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を１５分といたします。

〈午前１１時０８分　休憩〉

〈午前１１時１５分　開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。　〔１７番　古畑浩一君登壇〕

○１７番（古畑浩一君）

おはようございます。

いつも最後にやってるんですけど、今日は２番目でやらせていただきたいと思います。久々の２番手なんでね、午前中でございます。皆さんの前でおはようございますというのも、なかなか久々でございますけどもね。

さあ、それでは、通告書に従いまして、一般質問をさせていただきます。

「滅びさすな、我が郷土（まち）を」これは、かつて私が所属していた糸魚川青年会議所で、人口減少、少子高齢化問題に取り組んだ際のスローガンであります。以来、４０年来、私は、「若者定着なくして都市発展の基盤なし」のスローガンの下、人口減少問題を取り上げてまいりました。

平成１７年の平成の大合併も、人口減少に対応するためのものでもありました。

しかし、合併時、５万３，０２１人であった人口も、本年６月時点で３万８，３２７人となり、１万４，６９４人が減少するなど、全く人口減少に歯止めがかからない状況である。

高齢化率も４１．１％と超高齢化社会に突入し、いよいよ危機的な状況となり、ついには消滅可能性自治体に分類をされました。

米田市政として、少子高齢化、特に女性の定着など、今後の対応策についてお尋ねいたします。

(1) 消滅可能性自治体指定をどのように捉えているか。

(2) 人口動態・少子高齢化の分析とこれまでの人口減少対策と新たな事業をどう展開していくのか。

(3) 歯止めがかからない人口減少、少子高齢化社会の今後のデメリットをどう考えているのか。